

令和 4 年度後期 授業改善計画（基盤教育群）

科目名	授業改善計画
English for Academic Purposes II	事前事後学修の時間が、他教科と比べて、大幅に増えていたものの、学生からはその点に関してのコメントはなかったため、継続して英語学習をすることができていたため、英語を外国語として学ぶ環境においては、問題はない。
Extensive Listening	リスニングが出来るようになることで、英語の表現力は飛躍的に伸びます。なぜか？それはリーディングよりも脳への刷り込み力が強いからである。リスニングは楽しい。コツを憶えることで確実に伸びます。特に日本人は曖昧母音を別の音で理解しているためキャッチすることが出来ない。例えば、miraculous。micraculousは「ミラキュラス」と憶えている。これは敢えて書くならば「ムラキュラス」である。「ム」という曖昧母音である。また音の連結に慣れることもリスニング力を増強させるために不可欠である。これまで知っていた音との違いに「気づく」ことも重要。「気づき」で憶えた音は強く頭に残ります。高校までの受験用の音理解から実用上の音理解に橋渡しができるよう、更に「気づき」の用例を増やし臨んでいきたいと思います。新カリキュラムにおいても、どの英語科目においてもリスニングは関連してくるので、随所で「気づき」の用例を示し、聞き取り力アップに貢献していきたいと思います。
コミュニティ・プランナー実践論	・コミュニティ・プランナー（CP）科目は、CP概論及び演習（2年前期）・CP実践論（2年前期）・CPFW演習（3年前期）で構成され、本講義は中間に位置する。2022年度における講義においても、実践者によるレクチャー、学外でのサイトビジット、グループワークを実施することができ、到達目標を達成することができた。次年度以降も上記のプロセスを基礎として講義計画を設計する。 ・本講義では、連携する自治体等との綿密な関係性が求められており、次年度もこれまで通りの協力関係が得られるよう、講義準備に努めたい。
コミュニティ・プランナーフィールド	・コミュニティ・プランナー（CP）科目は、CP概論及び演習（2年前期）・CP実践論（2年前期）・CPFW演習（3年前期）で構成され、本講義は総まとめに位置する。2022年度の講義においても、チームビルディング、事前調査、学外でのフィールドワーク、グループワークでのプロジェクトの立案を実施し、到達目標を達成することができた。次年度以降も上記のプロセスを基礎として講義計画を設計する。 ・本講義では、連携する自治体等との綿密な関係性が求められており、次年度もこれまで通りの協力関係が得られるよう、講義準備に努めたい。
情報化社会と技術	看護のクラスでは、例年のことではあるが、看護師国家試験に関係ない科目に対する忌避感が一部の学生に見られた。看護専門学校ではなく、大学における基盤教育の重要性については何度も話をしたつもりであったが、通じていないのは残念である。次年度はその説明をより丁寧に行いたい。 事業構想のクラスでは、熱意をもって取り組む学生と、そうでない学生との開きが大きかった。情報技術に関心の薄い学生の興味を引くような講義の構成を試みたい。ネガティブなコメントとして、前期のコンピュータリテラシーと重複箇所があった、2クラスの内容に差があるという意見があった。重要な話題は繰り返し扱うのが当然であるし、教え方に教員の個性が出るのも必然である。しかし一年生にはまだそのあたりが解らないようである。来年度は、そもそも大学における学習とは何かという一段階上の視点についても伝えたい。 食産のクラスでは試験的に、食産業関連企業のDXやAI活用に関する情報も意識的に取り入れ、特に各企業の新卒採用ページなどを取り上げ、当該分野でも今後情報化が進むことを紹介した。ある程度の割合の学生には、食産業と情報化の関係を理解されたとアンケートの結果からは考えられるので、来年度も引き続き当該分野の情報化の現状等を講義内容に含め、当事者意識を持てるよう講義を進めたい。
基礎統計学Ⅰ	【良かった点についての自由記載】 ・すべての質問に丁寧に毎回答えていた ・説明が丁寧に分かりやすかった ・遅刻をきちんと取り締まる点 ・いつでも質問に来てくださいというのがとても心強かったです ・質問に親身に対応してくれる点 ・課題が毎回あったことで、より理解が深まったと感じています ・何回も繰り返し解説 出来るだけ丁寧に、分かり易く解説していくことを担当教員間で申し合せ、教科書に沿って講義を展開していくようにします。そうすることで、予習・復習し易くなると考えます。また、質問については、出来るだけ早く、丁寧に答え、講義外で指導できる時間を取るようにしていきます。エクセルを用いながら講義を展開し、理解を深め、応用性を高めていくようにします。 【改善点についての自由記載】 ・先生によって教え方や内容が違う ・進度が速い ・exelを用いるのに授業でPCを使わないので内容について行けない、もっと演習して欲しい ・他のクラスと教え方が違う ・授業で話される内容が難しく、理解できない ⇒担当教員間の考え方や講義展開の仕方については、さらに申し合せて斉一性を保つように調整します。また教科書をサポートするような追加資料を配布する等をして、理解がより深まるようにしていきます。テストの難易度は、学生さんの勉学の仕方や理解度によっても感じ方が異なります。講義シラバスや提供している内容は、大学生が学ぶべき基礎的なものですので、予習・復習・質問等を行って、自助努力を行うことを強く望みます。

令和4年度後期 授業改善計画（基盤教育群）

科目名	授業改善計画
English Gateway II	1 クラス間によって課題内容、課題量ともに若干の差があった。→提出課題の内容と量については、クラス間に差が出ないよう情報を共有しなるべく統一したい。2 扱った長文の全訳がほしい。→原則として全訳は渡さないで、授業中、教員の解説等で理解してほしい。把握が難しい構文や難解な表現が含まれる箇所については適宜プリントを配布する等で対処したい。
English Self-Expression II	よくある不満は、クラスによってばらつきがあることです。会議やメールでの打ち合わせを通じて、シラバスを全教員に周知徹底するように努めています。しかし、どうやら授業の内容や進め方にはまだ統一性が必要なようなので、学生が自分の授業についてフィードバックできるよう、オンライン上に匿名のフィードバックフォームを作るなどの対策を講じる予定です。 「English Self-Expression 1・2」では、文法をあまり気にする必要がないので、「たくさん話して、間違えても恥ずかしくないようにしましょう」と刷り込んでいきたいですね。文法に自信がない場合は、生徒の責任で勉強するか、先生に相談してください。貴重な授業時間を使って文法について議論することは、このクラスの焦点ではありません。
中国語 II	・課題の提出方法は具体的な指示を出します。 ・学生の理解を深めるために授業外の学習時間を増やす工夫もしていきたいです。 ・グループワークで各グループ班の参加状況を確認するようにします。 ・両クラスの学生人数のアンバランスの調整に工夫をします。 ・中国語の勉強に対する意欲をアップさせるため、「加点制」を含めていろいろ工夫をし続けていきたいと思います。 ・使用テキスト以外から（中国語の社会・文化）も様々な学習を取り入れ、学生にとってもっと満足度の高い授業にしていきたいと思います。 ・授業方法に更に工夫をしながら、学生の皆さんが楽しく中国語力を向上できるような環境整備を実施していきたいと思います。
韓国語 II	韓国語 II の授業の目標は「基礎的な日常会話ができる文法や語彙を習得する」というものであり、そのため、関連する言葉や文法について学んでいる。また、それだけではなく、学んでいる言葉に関連する歴史や生活礼儀など文化の紹介を行っており、より韓国語が理解できるように務めている。それにより、学生たちがより韓国の文化に親しみを感じて、韓国語を勉強するという動機付与になるのであろう。しかし、今までの授業は、教員による一方的に伝える講義式のものである。教員が知っている情報を一方的に伝えて学生はそれを習得するという形の授業になりやすい、しかし、学生が自ら知りたい情報を探るというような方法で授業に参加できるのであればより楽しく言葉や文化について学んでいくはずである。そのためには学生たちと教員のあいだにコミュニケーションが必要である。そこで、今後の授業は、学生たちと教員のあいだにコミュニケーションをとるための改善を行うようにする。例えば、コメントシートなどを通して学生が知りたいものが何かなどの把握や授業中に質問する時間を長く設ける、また、文化の違いなどを一緒に調べてみるなどのように、より積極的に参加できるように改善していく。
スペイン語 II /Spanish II	During the first semester, it seemed that students felt overloaded with tasks to do. In order to solve that problem, some adjustments were made in the second semester, and I will continue improving this issue by simplifying learning materials. I will provide summaries, shorten reading contents, focus on most basic points and use less relevant information as reference material. I rather think that motivation in class tend to decline at the end of each semester, which could somehow affect some students' academic performance. It takes time to get better in that area since all students are motivated differently. Nevertheless, in order to tackle this issue, I am planning to show varied experiences, increase student interaction in the classroom and so forth.
憲法	【良かった点についての自由記載】（抜粋） ・資料や説明がとてもわかりやすく、復習の際も情報がしっかりと頭に残っているのを感じた。 ⇒憲法の初学者にとって解りやすい授業を心がけましたので、そのような評価を頂いて嬉しく思います。 【良かった点についての自由記載】（抜粋） ・人が多いというのは承知だが、個人的には対面の方が集中しやすかった。 ⇒令和5年度は対面で実施することになりました。

令和4年度後期 授業改善計画（基盤教育群）

科目名	授業改善計画
政治学概論	毎回コメントを書いてもらい、次回授業の冒頭に「コメントへの回答コーナー」を設けているが、好評を得た。かなり時間を割いて準備しているため、安心した。今後も継続したい。 おおむね平均以上の評価を下されたが、「授業マナー遵守への配慮」「時間外学習」が平均以下であった。前者については、授業中に私語があったという記憶もなく、毎回のコメントや授業評価の自由記述にも指摘がなく、何が原因でそうした評価になったのか分からない。 後者については、明確な課題を出したほうがいいのか検討する必要がある。本講義の場合、学生が政治に関心をもってニュースを見聞きすれば、それで授業前後の学習と言えるが、学生には「学習」しているという感覚が得られなかったのかもしれない。明示的に「ニュースを見てレポートを作れ」といった課題を出すべきだったかもしれないが、そうするとそれを採点する教師側の時間の確保が問題となる。今後の検討課題としたい。
国際関係論（食産）	【良かった点についての自由記載】（抜粋） ・先生の説明がとても丁寧で分かりやすかった。また、重要なところは色が付けてあったので、重要なところがどこなのかを理解しやすく、テスト勉強がやりやすかったし、理解が深まった。 ・レジュメの要点が整理されていて分かりやすかった。 ・資料が分かりやすく予習復習もしやすかった。 ・今までは与えられた情報をそのまま信じていた。だが、この講義で学んだことをもとに、自分で考えることが出来るようになったことで、国際関係に対する見方が今までと変わった。 ⇒国際問題に関心を持ち、問題の本質を理解してもえるような授業を心がけましたので、そのような評価を頂いて嬉しく思います。
社会と経済	概ね、大学の全授業平均より高い評価であったが、全体平均より低い点数であったのは、「学生自身の授業目標到達度」であった。到達目標のうち、「国際経済の中での日本経済の在り方について説明ができる」については、高校までの学習ではあまり説明されていない点で、難しい点である。教科書における理論的内容と現実の経済の動きが必ずしも一致しないこともあることも原因と思われ、その乖離についても丁寧に説明するようにしたい。 また、事前・事後学修の時間が少ない点については、学生がすべきことを、講義内で明確に指示するように努めたい。たとえば、計算問題について、解説を見ないで実際に自分の手で計算して正解を導出できるかなど、例示したい。
現代東北社会論	・平均数値では内容および分かりやすさが比較的評価されているので、この点は今後を維持していきたいと思います。 ・一方で自由記述では、各回のポイントや要点を掴むのに苦労した方も居るようです。この点は、毎回の問題意識の設定や授業後のポイントの整理等の精度を高め、改善を図っていきたいと思います。 ・なお、課題が少ないとの意見も、若干ではありますが提示されています。平均数値では授業外の学修時間も不足気味の要ですので、課題を増やすことを検討していきたいと思います。
社会の諸相	概ね良好な評価を頂戴したようです。引き続き、このスタイルを堅持していく方針です。

令和4年度後期 授業改善計画（基盤教育群）

科目名	授業改善計画
数理科学	授業評価アンケートの結果は下記の通り。 【この授業に関して、良かった点】 おおむね良かった。／グラフ理論の基礎的な知識について分かりやすく学ぶことが出来たこと。 面白くて飽きない。／新たな数学の知識がついてとても良かった。／数学が面白い。先生が面白い グラフ理論を通して、数学的な考えを少しでも掘り下げられたこと 【改善したほうがよい点】 Formsの要望記載欄に書いたことについて一切反応がなかった。／本当に出席しているのか確認すべき 参考書が欲しかった。／男女の例が多く、少し不快に感じた。／教材がほしかった テキストが欲しかったです。／テキストがない。あとの復習がし辛い 【その他、意見、感想、要望など】 テスト勉強がしにくかったです。もっと例題などを解いて、答え合わせする時間が授業内にあって欲しかったです。 とても有意義な講義だったと思う。 ユニークな講義で楽しみながら聞くことが出来ました。ありがとうございました。 →好意的な感想がある中、以下の点について改善点として認識していく。 ・フォームなどでの要望記載などへの対応の強化 ・マッチング理論の基礎を提供したが、典型例である「男女のマッチング」などの例への配慮（一方理論の発展過程・背景として触れないという判断はしていない。） ・教科書の作成。これは例年要望がある。 「数学概論」のテキストの作成・配布は好意的に受け止められているので要望に応えたい。 作業時間の工面のみが問題である。責任をもって学内運営業務に対して無責任にならないければ、教育研究職と全うできないね。
生命科学（食産）	授業評価アンケート、ありがとうございます。以下に皆さんからのコメントを記します。 【良かった点（抜粋）】 ・外部講師の方をお呼びしていただいたことで、興味深い話を聞くことができ楽しかったし、その影響で、普段の授業にも集中できた。 ・授業がわかりやすかった。 ・外部講師の人からいろんな話が聞けた点。 【改善した方がよい点】 ・渡された資料が少し分かりにくかった。 →スライドの内容を整理します。
環境学概論	学生からのコメントは、比較的良好であった。「課題の提出や内容についてもっと詳しく教えてほしかった。」などの指摘があったので、改善したい。

令和4年度後期 授業改善計画（基盤教育群）

科目名	授業改善計画
地球と宇宙	授業評価アンケートへのご協力ありがとうございました。 【よかった点の自由記載】（抜粋） ・小テストが3回あるので、その都度復習することができた。 →引き続き、このような形式での学習成果の確認を実施していこうと思います。 ・スライドがとても見やすく、動画などもあってわかりやすかったです。砕けた説明がよかった。 →引き続き、講義コンテンツのブラッシュアップをすすめたいと思います。 【改善したほうがよい点】 ・教室は1つで行うべき。オンライン授業がわかりづらい。画面外での説明が多い。授業を受ける場所が分かりづらい。 → コロナの状況、大学の状況が許せば、一つの教室で講義を実施します。 ・大事なポイントをつかむのが難しかった。テストが難しかった。 → 講義で重要なポイントをより強調するようにします。 ・小テストの内容がレジュメに書いてないことが多く講義の意味がないのでレジュメからテストを作って欲しかった。 → レジュメ持ち込み可の小テストです。講義中にメモをとるよう、さらに強く促していきたいと思います。 【その他、意見、感想、要望など】 ・先生が面白かったです。高校で学習した地学の知識に関連付けながら学習することができてよかった。 → 引き続き、高校での学習とのつながりを意識した講義を実践していきたいと思います。
数学概論（食産）	授業評価アンケートの結果は下記の通り。 【この授業に関して、良かった点】 テキストが見やすかった。 テキストがあるのがうれしかった 練習問題が多く用意されていた点。 【改善したほうがよい点／その他、意見、感想、要望など】 授業の間に先生が話してくださる話が非常におもしろかったです。 大学生になってから数学に触れる機会がなかったため、このような授業があって数学の楽しさを思い出せた。 コメントは上記ですべてである。概ね良好な結果と認識する。テキストについてはより改善する時間を設ける予定である。
物理概論（食産）	少人数での開講であり、アクティブラーニングなどの実践には好都合であったが、コロナ禍のために実現が困難であった。今後は、情勢を鑑みながら積極的に導入していきたい。
日本の歴史と文化（食産）	・平均数値を見ると、分かりやすさ・内容・関心の喚起などで高い評価を得ており、この点はこんども維持できるよう努めていきます。 ・一方で、到達目標に関わる数字が若干低めにでています。授業をする側としては概ね満足できるレポート等が提出されているので、みなさんがそれぞれに到達目標の達成感を持てるよう、各回の授業で目標との関係をよりしっかりとフォローするなど改善に努めたいと思います。 ・また、知的関心の喚起は高い数値を示していますが、授業外の学修時間が圧倒的に不足している様子もうかがわれます。皆さんの関心に応え得るような素材を提供するなどしますので、時間外にも日本史に触れ親しんでもらえればと思います。
心理学（食産）	メモリアルホールという授業環境としては良いとはいえない場所だったので不便をかけたと思います。新型コロナウイルス感染症が収まり、通常の教室に戻れたらよいと思います。 音響も必ずしもよくなく、スクリーンにPC画面を提示しての授業でした。受講生の数に比べて大きい講義スペースでした。スクリーンを見るために前の方に座って欲しかったのですが、後ろにしか着席していませんでした。良くない授業環境でしたが、各自できる範囲で工夫してもらえればよかったと思います。 心理学は日常の人間行動と密接に関わっている学問なので、日常生活の例を挙げていくようにしてきましたが、それをきっかけに普段の生活で気につけないようなことにも目を向けるようになったり、当たり前と思うような事象の背景に複雑な情報処理が行われていることに気づいてもらえれば授業の目標としては十分です。 もう少し内容をかみ砕いてわかりやすいようにしたほうが良いとの意見もありましたが、かなりかみ砕いて説明したと思います。わからなかったこと、わかりにくかったことはレスポンスシートを使って質問してください。

令和4年度後期 授業改善計画（基盤教育群）

科目名	授業改善計画
健康科学（食産）	自由記述の主なものは以下のとおりであった。 良かった点 ・要点がまとまっており、わかりやすかった。 ・授業の内容が面白かった。 ・テスト前に要点をまとめてくれたのでテスト勉強で困らなかった。 ・授業がわかりやすかった。 ・説明が簡潔で分かりやすかった。 改善したほうがよい点等はあげられなかった。 引き続き、各回の授業内容の教授・学習方法を点検し、必要な改善を行う。事前・事後学修については、担当教員単位でより具体的な教示や声かけを行う。
スポーツ実技（食産）	授業評価アンケートへのご協力、ありがとうございました。 感染症＋雨漏り対策等のために制限される活動も多々ありましたが、授業評価アンケートでは『良かった点』として、●分かりやすい、●初めての人と同じグループになることで知り合うきっかけとなりよかった、という意見をいただきました。これらに加え、ほぼ全ての項目が全学平均を上回っていたことや、レスポンスシートの内容、授業の様子等から、一定の満足度、学習効果が得られたものと考えています。 一方、『改善すべき点』に記載はなかったものの、『その他』として、●感染対策をしていたのはとてもいいと思うが、すこし敏感になりすぎだと思った、●実技の授業だったので最後まで実技をやリたかった、という意見もありました。まず、感染対策については、初回ガイダンス等で本科目の対策内容を説明した上で履修を検討していただいておりますが、受講生によって感じ方の違いがとても大きいので、次年度もより丁寧に説明し、いろいろな制限のある中でも最大限の効果、楽しみが得られるよう検討したいと思います。次に、実技回数についてですが、今期は、シラバスや初回ガイダンスで説明した基準で予定通りの実技回数を確保することができましたが、年度によっては、様々な感染症の発生状況や気温等、安全な実技環境の確保が難しいこともありますので、教室変更になった場合でも実技要素を盛り込む等、次年度以降はさらに工夫してきたいと思います。
体を動かす楽しみ	授業評価アンケートへのご協力をありがとうございました。 感染症対策等のために制限される活動も多々ありましたが、授業評価アンケートでは『良かった点』として、●自分の体の不調やゆがみについて認知できるような実践的な授業が行われていた、●授業全体を通して多くのことを考えることができ、将来的な健康にも目を向けるようになった、という意見をいただきました。これらに加え、ほぼ全項目で全学平均を上回ったことや、毎回提出のレスポンスシートの内容、授業の様子等から、一定の満足度、学習成果等が得られたものと思われます。特に、遊び要素のあるレクリエーション活動（アクティビティ）を通じて、運動能力レベルや障がいの有無などにかかわらず、工夫次第で誰でも一緒に楽しめることを多くの方に実感してもらえたことは科目担当者として嬉しく思っています。 一方、『改善すべき点』『その他』として、●体温チェックの締切時間を遅くしてほしい、●グループづくりを受講生が行うことが苦痛、●ダンスを考えるのが難しい、●授業の目標などを話してもらうとさらに楽しめる、といった意見をいただきました。まず、「体温・体調チェック」についてですが、授業前に全受講生の健康状態を把握できるギリギリの締切時間を設定せざるを得ませんでした。やむを得ない事情で締切までに提出できない方は、個別に対応していましたが、次年度以降は感染状況に合わせチェック方法を工夫したいと思います。「グループづくり」については、各受講生でやりやすい形（好き嫌い等）が分かりますので、種目特性も考慮しながら、こちらで指定したり、受講生で決めてもらったりしておりました。また、授業後のレスポンスシートに自分のアイディアや希望をコメントしてくれた方もおりました。次年度以降は、レスポンスシートをより積極的に活用し、より多くの受講生にとってバランスのとれたチーム分けのバリエーションを増やしていきたいと考えています。「ダンス」については、“いわゆるダンスではなく、リズム要素のあるエクササイズ”として様々な種目をできる範囲で体験してもらおう内容になっていますので、次年度以降はこの部分を強調して説明したり、個別相談をしやすいしながら進めていきたいと思っています。「授業の目標等」については、初回ガイダンスやシラバスの説明に加え、種目ごとに重要ポイントを全体に説明し、個別対応もしてきましたが、特に各動作のポイントについては個人差もありますので、次年度以降は受講生のみなさんがもっと気軽に確認できるような方法を検討したいと思います。
スポーツ科学（食産）	授業評価アンケートへのご協力、ありがとうございました。 ほぼ全ての項目で全学平均より高かったことに加えて、『良かった点』や『その他』として、●知識として得たことを実生活に生かすことの重要性を改めて知ることができた、●健康についてのモチベーションが上がるような話し方だったのでやる気が出たことがうれしかった、●授業がわかりやすかった、●補講をマンツーマンでもらいとても有難かった、といった意見をいただきました。本科目がきっかけで健康づくりの意識が高まったり、個別指導（遠隔）を受けたりする方もおられ、科目担当者としてとても嬉しく思っています。 一方、『改善すべき点』として、●専門的過ぎて理解が及ばない点が多くあった、という意見がありました。初回ガイダンスで説明したように、本学には文系、理系の方がいますので、レスポンスシートの内容等に基づき、受講生の得意、苦手な分野も考慮しながら（シラバスの範囲で）毎回の内容を検討しています。「補講」以外でも、個別に興味を持っている専門的なことについては、必要に応じてリモート指導なども行いましたが、次年度以降は、わかりにくいことを授業以外でサポートできる体制を強化していきたいと思います
福祉入門	「福祉」とはなにか、なぜそのようなになったのか、現在の福祉とはなにか、の概略を説明する授業である。詳しい事項については、専門毎に勉強してほしいと思うが、ここ20年間に急激に「社会福祉」が増加し、社会全体の「福祉」像が大きく変わったメカニズムについては詳しく説明した。今後も変わっていくだろうから、事柄も重要であるが、福祉の考え方をしっかり学べるようにしたい。また、遠隔であることによる制約はつきものであるので、そのような制約が少しでもなくなるよう工夫をしていく必要がある。資料と板書のスイッチはPC画面の操作にもたつきがある点は要改善である。

令和 4 年度後期 授業改善計画（看護学群）

科目名	授業改善計画
栄養学	・遅刻なども含めて出欠管理について酷評を得たが、出欠管理の方法と厳格さについては、昨年度と同様に学類の判断に委ねる。 ・教科書を指定したので、最低限必要と考えられる重要事項については、教科書に記載されている内容を自学修することで修得可能と判断した。授業では、その周辺知見を紹介し、暗記中心ではなく、栄養問題に関心を持ち、課題を抽出できる能力を身に付けることを意識した授業をとしたが、難解なイメージを持たれてしまったようである。次年度は、教科書に沿った解説を増やしていくこととする。 ・事前・事後学修時間が極めて少なく、要点整理も自学修において困難とのこと、毎回の授業の要点をまとめる確認学修ができるようなショートエクササイズ等をTeamsを利用して課することを検討する。
疫学Ⅰ	授業評価による自由記述などを踏まえて今後の授業改善として以下の点を上げたい 授業計画と内容 ・1つの講義について特定のテーマについての解説を行った。提供する情報や事例はなるべくアップデートする。 ・海外のデータが少なく余り紹介できなかったので、今後の検討課題としたい。 講義資料 ・資料はスライド資料ではなく、ワープロで入力した文書形式のものを利用しているが、プレゼン用のスライド資料が望ましいと考える学生を想定して形式についても検討する。 課題 ・ほぼ毎回課題の提出を求めた。課題の多くは過去の国家試験の内容であり、定期試験の事前準備としての機能も想定しているものである。学生にとっては定期試験の準備として有効に機能したこともあると考えている一方で、課題のボリュームは少ないため、もう少し問題のバリエーションを増やし、負担を大きくしても良いかもしれない。 説明 ・専門的な言葉や計算など学生にとって不慣れな部分が多いと思われるので、丁寧な解説を心がける。
疫学Ⅱ	授業評価による自由記述などを踏まえて今後の授業改善として以下の点を上げたい 授業計画と内容 ・1つの講義について特定のテーマについての解説を行った。提供する情報や事例はなるべくアップデートする。 ・海外のデータが少なく余り紹介できなかったので、今後の検討課題としたい。 講義資料 ・資料はスライド資料ではなく、ワープロで入力した文書形式のものを利用しているが、プレゼン用のスライド資料が望ましいと考える学生を想定して形式についても検討する。 課題 ・ほぼ毎回課題の提出を求めた。課題の多くは過去の国家試験の内容でもあり、国家試験を控える学生にとっては有効に機能したこともあると考えている。しかしながら課題のボリュームは少ないため、もう少し問題のバリエーションを増やし、負担を大きくしても良いかもしれない。 説明 ・専門的な言葉や計算など学生にとって不慣れな部分が多いと思われるので、丁寧な解説を心がける。
疾病論Ⅲ	学生さんたちは毎回確りと授業についてきてくれました。期末試験でもよく勉強し、頑張りました。今後も、遠隔授業、対面授業に関わらず、学生さんたちの反応を見ながら、分かりやすく楽しい授業をしていけるような努力を続けていきたいと思っています。
代替療法	本授業は、演習や体験を多く取り入れることで、補完代替療法の効果について、実感をもって、特徴を理解できていた。漢方については、看護学群での既習の科目のすべての知識と関連づけながら、治療と生活をふまえたディスカッションができた。体験を取り入れながらの授業構成を継続し、外部講師と協力して内容の充実をはかる。 指定日で授業日時の変更の学生への周知をできるだけ早く行う。
看護実践論	・授業評価はすべての項目で全授業の平均値よりも高く、概ね良好な評価だったと思います。自由記述でも、講義資料や説明のわかりやすさ、教員の指導についてよいコメントをいただき、この点については継続していくようにします。 ・ジグソー法学習やグループワークなどのアクティブラーニングを取り入れていることに対して良かったという意見があることから、今後も学生が能動的に参加できる授業方法を検討していきたいと思います。ジグソー法学習は知識の習得にとっても役立ったという意見がありました。自分で調べ、既習内容を確認しながら他者に説明できるように理解することが知識の定着につながることを実感できた人も多かったのではないのでしょうか。今後も科目間のつながりを意識した授業計画・運営に取り組んでいきたいと思っています。

令和 4 年度後期 授業改善計画（看護学群）

科目名	授業改善計画
地域看護学概論	事例を基に説明されて分かりやすく興味がわいた、地域で活動する方々のリアルな話を聞いたのが良かった、楽しく学ぶことができたという記述があり、今後も続けていきたい。 一方、レスポンスの提出期限、レスポンスのフォームなど教員によってやり方が異なる点の指摘があったので、教員間で情報収集し、統一できることを統一したり、学生が戸惑わない説明を加えていきたい。また、重要なことがわかり難い、難しい授業資料があったなどの指摘があったことから、これらについても教員間で共有し、来年度の授業にいかしていきたい。
家族看護論	グループワークによる劇作成やロールプレイにより、体験的に家族看護を学ぶことが出来たのでよかったと思いました。また、外部講師の方からの講義で、また別の角度からの理解を得ることが出来たと思います。ただ、せっかくみんなで作成した劇を、鑑賞したり、じっくりと評価する時間が取れませんでしたので、相互評価するための時間が確保できるように工夫したいと思います。そして、他学年の演劇を見てイメージを膨らませたかったという意見もありました。その通りと思いますので、すでに家族看護論の科目を終えた履修生に、作成した演劇を後輩の学生たちに見せてよいかどうかを確認し、承諾を得たうえで、これから履修する学生が見れるようにしたいと思います。
災害看護支援論	本科目の回答平均値は大学全講義の平均値に比べると、全ての項目が上回っており、履修登録者の高い達成感や満足感が得られたことがわかる。今年度も例年と同様にゲスト講師を招聘したが、災害直後の被災地での活動経験を持つ災害看護の専門家を数名招き、対面授業で教授した。具体的には、災害時の精神医療活動であるDPAT看護師と医療活動を行うDMAT看護師、災害慢性期における実践家である精神科認定看護師を招いて講義を行っていただいたため、「知識や技術の習得・知的関心の喚起」の向上につながったと考えられる。講義テーマに関して、前期の救急・災害看護論と継続性を持たせ、前期の授業で既習の知識を演習などを通して理解を深め、実践力を高めることを目指した。今年度のフィールドワークは、例年と同様に、令和元年台風19号の被災地域でもある丸森町で被災者でもあり地域の防災活動に取り組む民生委員に現地での講話を依頼した。また、被災時の活動拠点でもある病院・避難所・仮設住宅での活動の実際について、活動経験のある看護師や保健師、職員から被災時の活動について講話いただき、グループワークを通して学びを深めることができた。現地での活動は新型コロナウイルス感染症拡大により、時間が限られていたが、得られた経験は印象深く、達成感や満足感が得られたと推測する。一方で、今年度のフィールドワークは学生の自主性を尊重し、希望制によるグループ編成を行ったが、一部の学生から希望制だとグループ編成が偏ってしまうとの意見があった。次年度以降のグループ編成方法に関して偏りが生じないように再検討を行う。また、昨年より受講者数が増えているため、次年度以降の演習方法、フィールドワークの場所への移動方法やタイムスケジュールに関しても再考する必要がある。
治療看護論	自由記述意見は「今まで習った看護技術や知識をより専門的な視点を得ることができた。」とあり、すべての質問項目で平均値を上回り、履修生の高い達成感や満足感が得られた。担当教員も、選択科目でもあり、履修した学生の興味・関心の高さや、課題への取組、回答内容の質の良好さを認識できていた。本授業は、DVD教材やエピソード、事例などを効果的に活用して意見交換したり、事後課題も講義内での意見交換をふまえて考えを整理する内容としていた。本科目は、2022年度新カリキュラムでは閉講となり、今年度が実質、最終開講年となるが、他の授業科目に可能な範囲で組み入れながら、学生が学びを重ね、看護の魅力を考えられる授業を検討したい。
母性看護援助論Ⅰ	母性看護援助論 は、妊娠期・分娩期における母子と家族の健康課題と援助について学ぶ科目でした。当科目では、ほぼ全ての項目について全授業の平均値を大きく上回っており、皆さんが大変熱心に当科目に取り組んだことが見て取れました。特に「知識や技術の習得・知的関心の喚起」「教材と説明の適切さ」「授業の要点・内容の整理」は、全科目の平均値を大きく超える高得点が得られました。当科目が特に重きを置くDPは「知識・技術」ですので、ねらい通りに皆さんが学ぶことができたのではないかと嬉しく思います。また、自由記載欄には「母性看護についての関心が大きく高まる授業内容だった」との意見もみられ、知識・技術の習得にとどまらず知的好奇心が満たされる経験をした学生がいたことをとても喜ばしく思います。穴埋め方式のレジュメの利点（ポイントがつかみやすい、授業に集中しやすい）も多数挙げられていましたので、次年度も穴埋め方式を踏襲していきたいと考えます。さらに、「授業外の学習時間」についても平均を上回っており、皆さんが主体的に学習したことが窺えます。自由記載欄には、生殖医療をめぐるディベートに興味深かったとの意見が多数見られ、このディベートをめぐって皆さんが主体的に学習したことが読み取れました。 一方で、ディベートの方法に関するご意見も多数いただきました。その多くは、代表者ではなく小グループで展開し、それを共有した方が、より議論や考えが深まるのではないかというものでした。今回初めてディベートを取り入れましたが、予想以上に皆さんの取り組みが積極的で学びが深く、生殖医療の現状と問題点、看護のあり方を考える機会となっていたことが分かりました。次回は小グループなど、より効果的な方法で進めて参ります。貴重なご意見をどうもありがとうございました。
小児看護援助論Ⅰ	引き続き、講義・演習の内容・方法の検討を行い、学生のみなさんの小児看護学の理解の促進につながるよう工夫をしていきたいと考えています。 特に技術演習について、みなさんが演習の目的やねらいを理解できるよう説明を行い、みなさんの技術が向上できるようなプログラムになるよう検討していきたいと思います。
精神看護援助論Ⅰ	外部講師や当事者の話を聞く機会があることで、よい刺激になったり、講義内容との結びつきが出来てより理解できたという評価がありましたので、引き続き、当事者の方からの語りを聞くことが出来る学習機会を設けていきます。 パワーポイントの字が小さかったり、見えにくかったという評価がありましたので、より見やすい資料を準備するように改善していきます。

令和 4 年度後期 授業改善計画（看護学群）

科目名	授業改善計画
在宅看護援助論Ⅰ	新型コロナウイルス感染症の影響が大きかった時期の講義となりましたが、事前課題を毎回、取り組んで提出していた皆さんは、試験結果にもつながったようです。また、良かったこととしては、事例を通しての学びが挙げられており、実際にイメージしながら、在宅での看護を考えてもらえたのではないかと思います。今後も、できるだけ事例や、実際の状況を理解できる機会を取り入れていきたいと思います。 講義資料については、紙での配布か電子ファイル配信かは、皆さんからの希望に基づいて対応していました。今回は、電子ファイル配信の希望はなかったもので、一部の資料は、電子ファイル配信不可のものもあり、紙配布で統一しています。事前課題については、教科書で答え合わせできないものについては、一定期間、Teamsに解答を挙げていました。答えや教科書等の書籍を見ても不明な点がある場合は、ぜひ、質問してもらえると良いと思います。また、新型コロナウイルスによる欠席の振替課題については、個別に体調を確認した上で決定し、体調が万全でない場合には提出期限を延長する等の配慮をしていました。こちらについても、不安な点がある場合には、教員に相談してください。今、情報の伝達方法が、口頭、メール、Teams、WebClass等々、多岐に渡っていますので、不明なことがある場合は、直接、確認してもらえると必要な情報が必要な時に伝わったり、対応もされやすいと思います。これから、ますます、学習上での対応は、皆さんからの申し出が大事になりますので、ぜひ、必要な対応として意識してください。
公衆衛生看護マネジメント	・本授業は、保健師活動における看護マネジメントについて理解し、地域住民の健康課題の解決のための公衆衛生看護マネジメントの基礎的知識・技術を修得を目指し、地域の社会資源活用と開発、施策化について考察し、地域ケアサービスの質評価・質保証について理解することを目的とした選択科目です。学校保健、健康危機管理等においても応用できる保健師としての基礎的能力の修得も、目標としています。 ・履修した学生は公衆衛生看護学実習での学びや資料、教員の経験も踏まえた授業内容や演習を通して理解し、目標に到達できたと実感していることが分かりました。 ・公衆衛生看護学実習でのチーム編成について、「本科目の演習も実習と同一メンバーで行うことを、前期の段階から知らせて欲しかった」という要望がありました。公衆衛生看護学実習の説明に併せてご連絡をしていましたが、実感につながらなかったのではないかと推察いたします。今後は繰り返し、本科目のチーム編成は公衆衛生看護学実習のメンバーと同様であることをお知らせし、準備性を高め、深い学びにつなげられるよう配慮いたします。
養護概説	・養護教諭教育課程の学生が2年後期に到達できる目標であるのか、目標到達に相応しい授業計画・内容であるのか見直し調整する必要がある。 ・授業マナー遵守への配慮については、授業後のリアクションペーパーから、学生のニーズを把握する工夫を続ける。 ・養護教諭教育課程専門科目である2年前期「学校保健論」、3年前期「健康相談活動」等との関連を検討し、カリキュラムマネジメントの視点からシラバスの見直しを図る。
教職実践演習（養護教諭）	養護教諭になるための学習の総まとめの位置付けになる科目です。 これまで学んできた教職科目や養護に関する科目についての知識と、養護実習での経験を結びつけ、養護教諭としてどのような視点で子どもたちを育てていくのか、どのような部分に知識や経験の不足があるのかなど、受講学生一人ひとりが再確認していくことがこの演習のねらいになります。 受講学生それぞれが養護実習で経験してきたことを共有し、養護実習を通してさらに深めたいと思った部分や不足していると感じた部分を補完していくことができる演習であるよう、今後とも受講学生のニーズに沿った演習展開をしていきたいと思います。
教育課程論	事前・事後学修の方法についてレクチャーを行うことを意識したい。なお、本授業で中心的に取り扱う新学習指導要領や近年の教育課程編成をめぐる課題についての学習は、養護教諭教育課程の学生たちには他人事になりやすい。グループごとでの役割分担による共同学習が効果的であることから、次年度以降に意識的に取り組みたい。
教育相談の基礎と方法	複雑に要因が絡み合って生じる問題について扱っているので、ポイントを絞ることで問題が単純化されてしまう危険性があるため、ポイントを絞った説明が少し難しいところがありますが、できるだけポイントが明確になるように工夫したいと思います。 レスポンスシートにより講義内で疑問に思ったことなどを把握し、次回の授業の最初に復習も兼ねて疑問点についても説明を行いました。うまく学修の機会になったようなので今後も続けていきたいと思います。 課題を出すことで事前・事後学修の時間を増やしていこうと思います。

令和 4 年度後期 授業改善計画（看護学群）

科目名	授業改善計画
臨床心理学	全ての評価項目が平均を大幅に上回っており適切に授業が運営されたと評価できる。主な自由記述の結果は以下であった。 良かった点 ・ただ聞いている授業だけでなく、ペアと話し合う時間があったこと。他の生徒と話したり、実践したりするところがよかった。体験式の授業が楽しかった。実際に学んだ技術を授業内で試すことが学びの役に立ったように感じる。 ・精神疾患について専門的な知識を得ることが出来、詳しく知ることが出来た。 ・匿名形式での交流があり、授業全体で生徒の主体的な授業参加の機会があったこと。質問しやすかった。 ・資料が完結的で見やすかった。 ・精神的に苦しくなった場合の措置があったところ。 ・傾聴の姿勢や無条件の受容の大切さを学ぶことが出来た。人とのコミュニケーションについて有益な知識を得ることができた。 改善したほうがよい点・要望 ・レポート課題内容の難易度を下げてほしい、問題提示をより分かりやすくしてほしい、採点結果を早くしてほしい、一人ひとりに改善点のコメントをしてほしい 引き続き、各回の授業内容の教授・学習方法・課題提示方法を点検し、必要な改善を行う。レポート採点結果に対する個別のコメントは受講生多数につき実施が難しいことから、引き続き履修者全員に対してフィードバックし、より具体的な教示を行う。
人間関係論	理解しやすいよう、できるだけ具体例を挙げて説明するよう心がけています。 1 年次の学生ということで、看護業務についてイメージできるようにしています。 人間関係（対人関係）についての知識やスキルは、看護業務だけでなく、日常生活の中でも必要なものです。看護業務との関係については意識して講義していますが、具体的なイメージが持てるよう事例等の工夫を続けていきます。 レスポンスシートに書かれた疑問点については、すべて説明することは時間的にできませんが、理解にとって重要なことがらについては次回の講義の始まりのところで復習も兼ねて説明しています。 授業内で説明していることも赤字などで資料に追記して欲しいという意見がありました。配付資料に付け加えるのは難しいので、Teams上にアップする資料として追記したものを提示したいと思います。

令和 4 年度後期 授業改善計画（看護学群）

科目名	授業改善計画
形態機能学Ⅲ	資料が少し見づらい。 一つのスライドに情報を詰めないでいただきたいです。講義資料が分かりづらいので改善していただきたいです。 回答： ・分かりづらい点は具体的に指摘してください。改善できます。具体的に指摘がなくなれば変わりません。 ・資料は基本的に一度読めば済む資料（発表会資料はその典型 そのかわり丁寧な詳細説明はほとんどつけない）ではなく、何度も熟読し考察し自ら深く理解するための学修用の資料です。バラバラにせず 1 セットで学んで欲しい事柄、これまで学修した事柄と因果関係・関連性を踏まえた新たな情報を整理して 1 枚に収めます。これは資料の枚数を最小限にすることにもなります。 ・資料の枚数はかなり増えますが、俯瞰的な情報をばらして 1 枚あたり 1 つの事柄だけにし、さらに今まで通りの俯瞰的な資料を加えることができます。 ・皆さんが思っている以上に学修すべき事は多いです。真面目に学習すれば教えないことで混乱しそうな点や疑問に思いそうな点も含め理解するために必要最小限な情報に絞っています。説明する事柄を減らして後は学生の自主性とすれば非常に非常に簡単な内容で一見分かりやすい授業になりますが、以前説明したように「分からないことが分からない」学生も出てきます。 授業の後の試験の期間が過ぎても答えがわからないと自分で見つけた答えが正しいのかわからなくて知識が曖昧になる。 回答： 問題は主体的に学習すれば正解に辿り着く内容です。わからない場合は積極的に友達と議論したり私に質問してください。学生の大半は正解に辿り着いているので友達と議論すれば大抵解決するはずだし、疑問点を私に質問することも可能ですから知識が曖昧ということはありません。よく質問する学生がいる一方で、残念ながら未解決のまま質問しない学生は結構います。また、以前に問題の正解を教えてその後、内容そのものは変えずに正解の選択肢を変えたり視点を変えたりした問題を提起し検討したら、不正解の学生の殆どがまた不正解ということが複数回ありました。つまり正解をだしてもそれを暗記しただけで中身を理解していなかったということがわかりました。小テストの答えをすぐ出した場合、答えだけを暗記してそのプロセスを十分に掘り下げず、また全く勉強しない学生が思いの外いるので、主体的に勉強してもらうためにできるだけ出さないことに主体的に勉強してもらうことを踏まえながら何処かの段階では「答え」を公開することも今後考慮します。また、わからない場合、質問したり友達と議論したりしてください。質問しにくる学生が非常に少ないのが残念です。「わからない」ままにすることは主体的な勉強を放棄していることです。 オンデマンドでの講義が二回ほどあったが、聞き逃したところなどを何度も聞き返すことができて便利だった。そのため、普通の授業のときも録画をするなどして何度も見返せるようにした方がいいと思う。 回答： 授業は通常対面授業です。わからないことを後回しにせず主体的に質問したり友達と議論してください。
薬理学	90分で説明しきれない盛りだくさんな内容だという印象でした。一つのスライドに情報を詰めないでいただきたいです。 資料が少し見づらい。 回答： ・皆さんが思っている以上に学修すべき事は多いです。真面目に学習すれば教えないことで混乱しそうな点や疑問に思いそうな点も含め理解するために必要最小限な情報に絞っています。説明する事柄を減らして後は学生の自主性とすれば非常に非常に簡単な内容で一見分かりやすい授業になります。主体的に積極的に学修するヒトは自分で疑問点も調べて授業以上のレベルを獲得してきますが、一方端折られた簡単な内容だけで納得してしまい「分からないことが分からない」ヒトも出てきます。 ・分かりづらい点は具体的に指摘してください。改善できます。具体的に指摘がなくなれば変わりません。 ・資料は基本的に一度読めば済む資料（発表会資料はその典型 そのかわり丁寧な詳細説明はほとんどつけない）ではなく、何度も熟読し考察し自ら深く理解するための学修用の資料です。バラバラにせず 1 セットで学んで欲しい事柄、これまで学修した事柄と因果関係・関連性を踏まえた新たな情報を整理して 1 枚に収めます。これは資料の枚数を最小限にすることにもなります。 ・資料の枚数はかなり増えますが、俯瞰的な情報をばらして 1 枚あたり 1 つの事柄だけにし、さらに今まで通りの俯瞰的な資料を加えることができます。 授業の後の試験の期間が過ぎても答えがわからないと自分で見つけた答えが正しいのかわからなくて知識が曖昧になる。 回答： 問題は主体的に学習すれば正解に辿り着く内容です。わからない場合は積極的に友達と議論したり私に質問してください。学生の大半は正解に辿り着いているので友達と議論すれば大抵解決するはずだし、疑問点を私に質問することも可能ですから知識が曖昧ということはありません。よく質問する学生がいる一方で、残念ながら未解決のまま質問しない学生は結構います。また、以前に問題の正解を教えてその後、内容そのものは変えずに正解の選択肢を変えたり視点を変えたりした問題を提起し検討したら、不正解の学生の殆どがまた不正解ということが複数回ありました。つまり正解をだしてもそれを暗記しただけで中身を理解していなかったということがわかりました。小テストの答えをすぐ出した場合、答えだけを暗記してそのプロセスを十分に掘り下げず、また全く勉強しない学生が思いの外いるので、主体的に勉強してもらうためにできるだけ出さないことに主体的に勉強してもらうことを踏まえながら何処かの段階では「答え」を公開することも今後考慮します。また、わからない場合、質問したり友達と議論したりしてください。質問しにくる学生が非常に少ないのが残念です。「わからない」ままにすることは主体的な勉強を放棄していることです。 オンデマンドでの講義が二回ほどあったが、聞き逃したところなどを何度も聞き返すことができて便利だった。そのため、普通の授業のときも録画をするなどして何度も見返せるようにした方がいいと思う。 回答：

令和4年度後期 授業改善計画（看護学群）

科目名	授業改善計画
	授業は通常対面授業です。わからないことを後回しにせず主体的に質問したり友達と議論してください。 テストを再再試験と本試験の範囲で出すのをやめて欲しいです。量が多すぎて勉強しきれず、辛いです。 回答： 講義後の試験や各々の再試験を本試験に向けて復習に使うのが大変という意味でしょうか？あくまでも試験範囲は講義した範囲全てで、講義資料を基準にしっかり学修すれば十分です。試験はその中の一部を出題しているに過ぎず、本試験の対策のために講義後の試験や各々の再試験の復習を強要するものでもありません。さらに日頃の学修習慣があれば定期的に講義後の試験は対応できるし、各々の再試験は時間の余裕があるはずです。日頃の学修ができていれば、本試験のために講義後の試験や各々の再試験を再チェックするのは苦にならないはずです。
公衆衛生学	授業評価による自由記述などを踏まえて今後の授業改善として以下の点を上げたい 授業計画と内容 ・1つの講義について特定のテーマについての解説を行った。提供する情報や事例はなるべくアップデートする。 ・海外のデータが少なく余り紹介できなかったので、今後の検討課題としたい。 講義資料 ・資料はスライド資料ではなく、ワープロで入力した文書形式のものを利用しているが、プレゼン用のスライド資料が望ましいと考える学生を想定して形式についても検討する。 課題 ・ほぼ課題の提出を求め、その多くは過去の国家試験の問題であり、定期試験の事前準備としての機能も想定しているものである。学生にとっては定期試験の準備として有効に機能したこともあると考えている一方で、課題のボリュームは少ないため、もう少し問題のバリエーションを増やし、負担を大きくしても良いかもしれない。 説明 ・内容をすべて説明しようとする設定された時間を大幅に超過することになるので、メリハリをつけた解説を心がける。 ・外部講師による実務にかんする講義は1年生にとって職業にかかわるイメージを持つ機会であり、今後も継続的に進める。
ライフステージ看護学概論Ⅰ	本授業の概要は、小児期、成人期、老年期の各ステージにある人の健康の特徴と、看護の関わりについて、講義を行いました。その後、ワークとしてライフステージ各期を経験した方々(泉区住民の方々)との交流、グループワークで、健康と暮らしについて意見交換を行いレポートをまとめました。 概ねの学生は、看護学の立場で、各ライフステージの特徴を理解し、ワークでの具体例につなげて考察を深めることができていました。授業の目標を達成することができており、講義とワークによる授業構成は、今後も継続し、内容の充実をはかっていきます。 授業評価の記述意見では、大きく3点の意見があり、改善とともにコメントを記載します。 ①講堂は学修環境として不適切(3件)：教員も講堂では明るさ、広さ等から履修生の反応を捉えにくいと感じました。2022年度履修学生111名に対応できる教室が他にありませんでしたが、今後は適切な教室の調整を行っていきたいと思います。 ②課題にしっかり取り組むには〆切までの期間が短かった(3件)：授業内容をふまえてタイムリーに思考し、レスポンスする課題を毎回出しました。今後、課題内容にあわせて、しっかり調べられるよう〆切までの期間を検討したいと思います。 ③小児、成人、老年それぞれの段階の看護について、もっと時間をとって深く学修したかった(3件)：本科目はライフステージに着目した看護の概要を学ぶ科目です。ライフステージと看護の関連に気づき、さらに深く学ぶ必要性に関する意見を嬉しく感じます。概論での学びをさらに専門的に発展させて深める科目は、2-3年生の小児看護援助論Ⅰ、小児看護援助論Ⅱ、成人看護援助論Ⅰ、成人看護援助論Ⅱ、成人看護援助論Ⅲ、老年看護援助論Ⅰ、老年看護援助論Ⅱで学ぶことができます。さらに、領域実習へとつながり講義での知識を看護実践に活かしていきます。1年生での学習意欲の継続を応援します。
災害活動論	選択科目であり、入学時から、災害看護プログラムに関心を持っている皆さんも少なくなく、全体的に、意欲的に学習に取り組んでいたと思います。2022年度から看護職教育が、全体的に（全国的に）新たなカリキュラムとなったことから、本科目でも、講義内容等、再考しました。応急手当や搬送の演習に近隣地域の方の参加を得たり、講義の講師としても、地域で実際に活動している方をお招きするなど、地域を意識した災害時の対応や支援ということを学習する機会になったのではないかと思います。 学習内容として、情報量が多かったものの、振り返りの時間や期末レポートについて、少し、時間をかけて理解を深めるということが、やや不足していたように思います。今後は、皆さんが学んだことを整理しながら学習の積み重ねができるよう、検討していきたいと思います。

令和 4 年度後期 授業改善計画（看護学群）

科目名	授業改善計画
看護技術論	看護過程に関する教材は、教科書だけでは十分ではないため、どうしても追加の資料が多くなりがちです。このため、資料についてはできる限り事前に提示するようにしています。今後は開講時に必要な資料を一括提示して、これから学ぶ内容の全体像が把握できるように調整します。また今年度から始めた患者の事例動画を用いた情報収集・アセスメントをさらに進めて看護過程の知識を具体的に展開する経験を増やす、SUSで学ぶ論理的思考や、携帯機能学、看護技術各論Ⅰなどの学習内容とのつながりを強化するなどにより、臨床推論が具体的に理解できるような講義展開としていきます。
看護技術各論Ⅰ	本科目の授業評価はすべての項目で全授業の平均値よりも高く、評価は良好でした。自由記述でも講義内容や教員の説明の分かりやすさ等、良いコメントをいただきましたので、今後も分かりやすい講義となるよう工夫し、関連科目である看護技術各論演習Ⅰでの看護技術の理解や習得につながるように授業計画・運営に取り組んでいきます。
看護技術各論演習Ⅰ	本科目の授業評価はすべての項目で全授業の平均値よりも高く、評価は良好でした。また、授業外の学習時間も全授業の平均値よりも2時間以上も上回っており、演習の課題や技術練習に熱心に取り組んでいたことが伺えました。一方で自由記述に、もう少し早く事前課題に取り組めるようにして欲しい、課題が重かったとの意見もあり、皆さんが計画的かつ限られた学習時間で取り組める課題内容や量について検討していきます。また、自由記述では教員の指導について良いコメントもいただきましたが、教員により指導内容・方法に差がある、演習や技術チェックの評価に差があるとの意見もいただきました。演習での基本的な指導内容・方法は、事前に教員間で打ち合わせをし統一するようにしていますが、各グループの演習内容の進捗や到達度により指導内容・方法を変更することもあります。今後も指導内容・方法に大きな差が生じないように、教員間で共通認識をもって指導できるようにしていきます。技術チェックの評価についても評価基準（ループリック）に従い、評価を担当した教員で会議を設けて評価していますが、教員間で評価基準に差が生じないように、皆さんの技術を客観的事実として確認できるような動画の導入などの工夫も検討していきます。

令和 4 年度後期 授業改善計画（事業構想学群）

科目名	授業改善計画
経営学概論	・授業評価アンケートの結果は、「授業計画のわかりやすさ」「授業の要点・内容の整理」「教材と説明の適切さ」「目標到達できる内容」「難易・進路の適切性」「学生自身の授業目標到達度」が全学平均値を上回る水準であった。これは、上述した毎回の講義レジュメや「考えてみよう」、ミニットペーパーの提出とそのフィードバックが奏功したものとする。継続していきたい。 ・一方で、「授業マナー遵守への配慮」については全学平均値を下回る水準であった。今後は、遅刻や授業態度への注意喚起をしっかりと行っていきたい。 ・授業評価アンケートの自由記述では、「教科書の内容に沿って授業をすすめてくれたため、自分で復習しやすかった」「学生自身が自分で考えるような時間も設定されており、意欲的に取り組むことができた」などの肯定的な意見があった半面、「次のスライドへの切り替えが速いことがあり、レジュメの空欄をメモする時間が足りなかった」趣旨の意見も寄せられた。今後は、話すスピードやスライド枚数に留意したい。
マクロ経済学	・人数が多く大きい講義室なので、講義室の後ろに座っている学生は、ホワイトボードへの板書が見えづらいと思います。できるだけ、大きく字を書くようにしたいと思います。 ・経済学の演習問題を解くためには、微分などの数学の知識が必要とされる場合があります。数学の理解は、学生間で非常にばらつきがあるように感じられるので、分からない人のために、出てきた都度、丁寧に説明していきたいと思います。
社会調査法	課題の多さなどから課題をこなすことが大変であったと思われます。初回講義で説明はしましたが、2回目以降から履修登録の変更などをして来られた方々にも充分周知をはかります。レポート課題の内容などから学修到達度は比較的良好ではないかと推察されますが、よりわかりやすく満足度の高い授業を目指します。
数理計画	・授業中の演習の際に、質問対応や受講生同士での相談の時間を増やしたい。 ・課題のフィードバックに時間を要したため、早期フィードバックに努めたい。
キャリア開発Ⅰ	・授業評価アンケートの結果は、いずれの項目もほぼ全学平均値と同等か、やや下回る水準であった。特に、「授業マナー遵守への配慮」と「知識や技術の習得・知的関心の喚起」では、本科目の回答平均値と全学平均値との乖離が認められた。今後は、OB・OGが社会で活躍する様子や、企業・自治体の最新動向などを盛り込むなどして、学生の知的好奇心を喚起する内容としていきたい。 ・授業評価アンケートの自由記述では、「自分の将来を見つめることができた」「自分を知るワークが多くて良かった」「職業以外の自分の人生について考える機会となった」「学内合同企業説明会への参加を必須にしてもらったおかげで、外部の合同説明会では聞くことができない話を聞くことができた」「毎回提出するミニットペーパーはテーマが設定されており、ただの感想を書くよりも有効だと思う」などの肯定的な意見も多かった。今後の参考としていきたい。
キャリア開発Ⅲ	①学生からの声が多かった「ワーク時間が短すぎる」という課題については、下記2点が主な要因と考える。 ・8回の講義に対し、扱うテーマやそのための課題設定が多すぎる ・ワークは講義中に全てが終わらなくても、出来なかった分を講義後に行ってOKという説明が不足（それが復習にもなる） 上記を踏まえてテーマやワークを適度に絞り込み、コンパクト化したいと考える。またワークは時間内に終わらせるのが目的ではなく、講義テーマへの理解を深め、エントリーシート作成などのスキルを高めるため、まずは講義中にワークをやってみて、講義後にじっくり取り組んで完了させることが重要であることを説明する。 ②「教材と説明の適切さ」「知識や技術の習得・知的関心の喚起」「難易・進度の適切性」の回答平均値が低いことから、学生にとって難易度の高いテーマ設定に対して知的関心を喚起し適切に説明する、という要素が不足しているものと考えられる。テーマ設定の難易度・知的関心喚起・適切な説明に配慮して、講義内容や講義項目の選定や、ワークの選定も見直して、平易化・簡潔化する方向に切り替えていきたいと考える。 ③上記を踏まえて、責任教員・担当教員とで講義内容や運用について話し合いを行い、改善を進めていく。
素材と加工	「素材と加工」は主に生活環境デザインコース学生にとっては、建築を中心に素材とその加工法の概念理解については死活的に必須のものである。また、感性情報デザインコース学生にとっても、物理的な環境とのインタフェースデザインを考える際にも素材感というものとそれを生み出す加工法について理解することは、質の高いインタフェースデザインを行う上で必須である。来期は特に後者の理解向上について事前にさらに深く周知することとする。必修科目が連続する時間割構成になっており、ゲスト講師回で授業後に専門家と会話する時間が取れない、旨の声があり、次年度は時間を調整することとする。

令和 4 年度後期 授業改善計画（事業構想学群）

科目名	授業改善計画
価値創造デザイン演習Ⅱ	全15回の授業内容の一部を見直したいと思います。これまで当該授業では「（1）ロゴマーク」「（2）インフォグラフィック（映像）」「（3）ポートフォリオサイト」の3つの課題に取り組みながら学習を進めていました。その中の（1）を「ピクトグラムとインフォグラフィック」として内容を変更したいと考えています。当該授業の目標の1つである「情報を要約し、ピクトグラムや図解などでわかりやすく表現できるようになる」という目標への到達をより強化できる内容変更となります。 具体的にはAdobe Illustratorを用いたピクトグラムの精緻なデザイン、その技術を応用したインフォグラフィックの表現演習となります。（2）のフェーズでは、さらに動的なインフォグラフィックのデザインに挑戦するので、その前の基盤となる静的な表現力の向上を目指します。これまで3つの課題に分散していた時間を、到達目標によりフォーカスできる形で再編成いたします。
経営戦略論	・授業評価アンケートの結果は、いずれの項目も全学平均値を上回る水準であった。特に、「授業の要点・内容の整理」「教材と説明の適切さ」「難易・進路の適切性」は全学平均値を3~4ポイント上回る水準であった。これは、上述した毎回の講義レジュメや「考えてみよう」、ミニットペーパーの提出とそのフィードバックが奏功したものとする。継続していきたい。 ・授業評価アンケートの自由記述では、「実際に知っている企業や店舗を実例に扱うことが多かったため、イメージしながら講義を受けることができた」「実例が毎回の講義で示されていて理解しやすかった」「学生自身が自分で考えるような時間も設定されており、意欲的に取り組むことができた」などの肯定的な意見があった。今後も、理論と実践の橋渡しとなるよう、実例を交えながら講義を展開したい。
マーケティング	スライドの展開が早いというコメントもあったが、学生が飽きずに講義を受けることを優先し、多めのスライドで展開が早い講義を実践した。 ※ ただし、その場合メモがとりづらくなるため、携帯でのスライド撮影を許可して講義を行った。
ロジスティクス	授業アンケートの「授業マナー遵守への配慮」と「授業外の学修時間」が全授業の平均値を下回っており、特に「授業外の学習時間」は全授業の平均値の3分の1であった。これを改善するため、資料の事前配布や予習・復習の必要性の喚起をすることとする。
マーケティングリサーチ	改善点としては、2点ある。 1.授業計画のわかりやすさ 学術的な理論と事例の講義が交互に行われるが、授業回によっては別々に分断されてしまうため、連続性を持った講義として理解することが難しかったと考える。講義内容を再検討し、各回ごとに連続性を持った講義構成へと改善する。 2.事前・事後修学 中間レポート、期末レポートに対する自習が主な事前事後学習であったため、学習時間はさらに学びたい学生のみが行い、その結果、「授業外の学習時間」が積極的に行われていないことが分かった。事前学習で各自検討する等、小さな課題を各回で設定するように改善する。これにより、講義で学んだ理論を、事前・事後修学によりさらに深化させる機会を提供する。
eビジネス	アンケート内で「VUCA時代の中で生き抜くにはDXへの理解というのは不可欠だと感じているので、学ぶ機会を享受できて良かった。」「グループワークや社外の方のお話を聞ける機会などが他の講義よりも多く、充実した内容でした。」と声といった肯定的なコメントが多かったので、基本的には現在の講義内容・方法を踏襲する。課題も3週間前から何度もアナウンスしており、それも継続する。デジタル系の内容のため、講義のコンテンツをさらにブラッシュアップしていく。
金融論	おおむね全学平均に近い評価を得られた。特に授業内容、教材については良好な評価を得ることができた。自由記述欄では高評価の意見を得ることができた。 ただし、数値からは課題が見受けられた。現実の課題や事例などを盛り込むなどの工夫を行ってきたが、さらに知的興味を喚起できるように講義を進めたい。また、授業マナーへの注意については、今まで以上に積極的に静穏な講義環境の形成に努めたい。
経営組織論	新カリキュラム2年後期科目の専門領域の最重要基幹科目として、展開科目への基礎として位置づけられる。経営学概論の学習内容、経営戦略論の学習内容を確認しながら、取り上げる概念、理論、学説については、若干の修正を予定している。授業内容、評価方法については、基本的な変更を予定していない。可能な限り最新理論、事例、教育メソッドを導入することで、大学生が本来求められる知的好奇心を喚起して、学生自身が主体的に学習行動を選択するような授業の実施を志向する。本年度、第1回授業において、「受講規程」「レポート提出規程」「参考文献引用規程」「参考文献表記規程」「評価方法」「評価基準」を配布して確認を指示したものの、一部の学生が全く指示に従わず、再三再四の確認と注意をしたにもかかわらず、一方的な責任転嫁をする学生も見受けられる。これについては教務事務と相談して、教務事務の協力を仰いで対処していきたい。特に、注意し続けているにもかかわらず「スマートフォン」の使用を止めない学生については、教員個人で対応するのに限界があるため、学群における「大学レベルの授業とは何か」という問題提起をする予定である。3年以降の「就職活動」の理論的支援に際して、学生の意欲・ニーズに差異があるため、これまでよりも、慎重に考慮（抑制・低減）する予定である。事前の「内容を体系化したレジュメを作成する」、事後の「疑問点が解消されたのかを確認する」は、想定通りには機能しないために、毎回、最初と最後に周知徹底する予定（各3分程度）である。本授業は大学の専門科目であることを強調し、不見識な態度・発言、授業の欠席など、学問に対する真摯な取り組みへの逆機能となる事象について、学問への真摯な取り組みを最優先する一貫して対応することを前提としてきたものの、教員の個人レベルでの努力の範疇を超える事象が散見される。

令和4年度後期 授業改善計画（事業構想学群）

科目名	授業改善計画
企業会計	授業評価、及びコメント部分におきまして、良好な評価を頂き有難く思っております。一方で、事前学習と事後学習に学生が費やした時間等は若干低い傾向にありますので、今後は、授業内で事前学習と事後学習の意義、更には、具体的にどうすべきかを丁寧に指示するようになっていきたいと考えます。
地域資源論	授業評価アンケートの結果からは、シラバスや講義内容については問題ないものの、ワークなどの考える時間が、もっとあると良いといった反応があった。木曜日の5限目の講義であり、集中力を維持するためにも、アクティブラーニング的な要素を強化していきたいと考える。ただし、このことについては、コロナ対応の結果でもあり、次年度の改善にあたっては、感染症対策の状況も踏まえながら善処していきたい。
地域社会学	授業評価アンケートの結果から、映像資料、映像教材等を多用することで理解を深め印象に残りやすく、更にこれらの資料、教材を踏まえて議論を行うことにより、通常の講義形態よりも、より多くの考える機会を与える講義にすることができたことがわかる。また、対面とオンラインのハイブリッドでの講義だったため、チャットにて意見発表の機会を与えることで多くの学生が意見を出し、その内容により他の学生が参考にしたり新たな考えを導き出す一助になったりもした。なお、ハイブリッド講義に対して学生からは歓迎の声が多数聞かれており、新型コロナが落ち着いてきたとは言え不安を感じる学生はまだ一定数おり、ハイブリッド講義を起用することでより学生の安心感を高めながら講義に集中させやすい環境を整えることが可能であると考えられる。オンラインを併用することにより、動画などはきれいな映像で確認でき、より集中して観ることにより各人の考えを深めることができるようになっていいると言える。 こうした点を踏まえ、次年度以降においては、映像資料や映像教材の論点をより明確にすることにより、学生がより理解しやすい形にするとともに、当該資料および教材に付随した形での説明や解説を講義およびその前後において実施し、講義内で学生に積極的に発言を求めることにより、講義内容のより深い理解を促す形態を検討する予定である。
国土・地域計画	授業評価アンケートへのご協力、有難うございました。 ・講義のスライドがわかりやすかったという意見に加え、説明が丁寧であった、そして進度が適切であったとの意見を頂きました。引き続き、自身の日常生活にも繋がる国土・地域計画について、わかりやすくかつ有意義な講義を心掛けたいと思います。 ・講義の最初に、前回の講義内容の復習を目的として、確認のための作業時間を設けました。この作業により前回と当日の講義のつながりを再確認するとともに、より深い理解と学びを目指しました。この方法について、振り返りにより知識の定着に役立った、より深い理解に繋がったとの意見を得ています。引き続き、より実践的な学びと理解を深められるようにしていきたいと考えます。
地域分析学	授業評価アンケートへのご協力、有難うございました。 ・説明がわかりやすい、資料が整理されていて見やすい、講義内で実践の時間が設けられているなどの意見を頂きました。引き続き、地域を分析するためのさまざまな見方や手法について、わかりやすくかつ有意義な講義を心掛けたいと思います。 ・本講義では一部外部講師をお招きしており、多様な業種の方々から地域の見方について講義して頂きました。そのため、最先端の状況について知ることができた、将来の視野が広がったとの感想がありました。このような方法が、受講生の新たな地域の見方や視野の広がりにつながったと思われます。引き続き、より実践的な学びと理解を深められるようにしていきたいと考えます。
都市計画	授業評価アンケートへのご協力、有難うございました。 ・講義資料がまとまっていてわかりやすかったという意見に加え、説明が丁寧であった、そして計算の仕方がわかったとの意見を頂きました。引き続き、自身の日常生活にも繋がる都市計画について、わかりやすくかつその魅力をこれまで以上に伝えられるような講義を心掛けたいと思います。 ・講義の最後に、当日の要点をまとめた確認テストの作業時間を設けました。この作業により、当日の講義の振り返りやポイントを再確認するとともに、より深い理解と学びを目指しました。この方法について、振り返りに要点の定着に役立ったとの意見を得ています。引き続き、より実践的な学びと理解を深められるように努めていきたいと考えます。
地方自治	学生からのコメントでは理論がわかりやすく学べたとあった。理論・実践・事例の学びについてさらに深められるように設計することにしたい。また、事実を問うものも重要であるとし、考え方を問うものと合わせて活用したが、そのことの意義について理解が得られていないコメントもあった。社会課題を地方自治の中で捉えるときに、歴史や地理的な知識が重要になることについてもきちんと説明を重ねたい。
交通計画	・講義で取り上げるテーマについて、事前に関心を持ってもらい、自分事として考えながら講義を聴けるよう、さらなる工夫を考えたい。

令和 4 年度後期 授業改善計画（事業構想学群）

科目名	授業改善計画
景観工学	景観工学は、私達が生活する都市や町、里地の空間構造について理解するための重要科目であり、よりよい理解のためのカリキュラム編成としている。地形、庭園、景観、それぞれの概念や歴史的な変遷、個々人の感性等の違いによる景観理解の耐用性についても学べる内容となっている。なお、過年度からの蓄積により講義内容は都市の景観に主眼をおいた形となっている。シラバスを維持しつつ、現在注目されている生物多様性や、ネイチャーポジティブの観点からの話題も加えて、景観工学をより多角的に理解できるよう改善を行う予定である。なお、景観工学の理解のため、野外講義の時間が計画されていたがコロナ禍へ対応により野外講義はバーチャルとして変更されており、令和4年度もそのスタイルを踏襲したが、学生からは、実際の野外講義を希望するものもあり、令和5年度後期の講義では、実際の野外講義も復活させることも考えている。
環境衛生工学	いずれの項目についても全授業の平均を上回っており、授業の内容、方法等、すべてにおいて、概ね良好な状態にあると考えている。ただ、全授業の平均値で、多項目に比べて、学生自身の授業目標到達度が低く、当授業においても、同項目が最も低い、学生自身が授業目標の到達度をどのように考えているのかを把握しながら授業を進めていくことが、本授業も含め、すべての授業において必要だと思われる。この点を学生の意見を聴きながら進めていきたい。
水理学	今後とも、水理学を使ったダム等の水利施設見学を組み合わせ、学生の理解を深化させることに努めていきたい。
構造力学Ⅱ	非常勤講師の権代先生による科目でしたが、限られた時間の中で、履修者の皆さんが権代先生と対話しながら授業内容を理解しようと努力したようすがうかがえました。引き続き同様の科目運営がなされるよう、努めます。
メディアプログラミング	・過去には一度も見られなかったため特殊な事例ではあるが、演習科目との連携について理解せずに受講する学生がいたようなので分かりやすく平易な言葉で説明して正しい理解を促す
ウェブプログラミング	授業評価に寄せられた意見より、以下の点を改善する。 ・環境について プロジェクターの文字が小さく見えづらい、マイクの音量が小さく聞こえづらいという意見があったため、改善する。 ・授業資料について わかりやすいという意見と、簡潔すぎる/文字が多いという両方の意見があった。アクセスと授業中の活用がしやすいwebを使った資料配布は継続し、内容は要点をまとめ直し、図を増やすなどの方法で資料の質を向上させる。 ・スピードと難易度 授業スピードと難易度については適切～速いという意見があった。実際に手を動かす部分と解説の割合を調整する。行っている作業の難易度についても解説を加える。また、作業の進行具合の確認や理解度の確認を適宜行う。
情報構造と可視化	授業の進め方は現状を維持しますが、課題は適宜更新する予定です。特に授業時間外の課題を見直します。
感性情報デザイン演習Ⅰ	・今年度は例年は見られない課題の難易度に関する要望があったが、例年と課題の難易度は全く同じであることから、特段変更せずにフォローを強化する ・授業時間外に質問対応することは初回授業時から何度も周知しているが、授業期間中に上記の質問や要望は一切なかったことから、説明を正しく理解していない学生には平易な言葉を使って理解を促す
情報サービスデザインⅡ	自由記述にネガティブなコメントはなかった。選択科目であるので、モチベーションの高い学生諸君が集まってくれたと思われる。来年度は事前事後学修時間が4時間になるように課題の量と質を調整する。
空間情報コンピューティング	【良かった点（自由意見抜粋）】 ・実際にアプリケーションを作る課題があったが実装方法、使用するプログラムに関する詳しい資料も用意されていて無理なくチャレンジ出来た点。 【改善すべき点（自由意見抜粋）】 ・記載なし 【来年度の授業改善について】 ・本年度は成績評価及び授業評価アンケートの評価点は多くの項目で全学平均を上回る結果となっており、授業内容・進め方は概ね良好な状況にあると考える。また上記の学生意見にも示されるように、課題は効果的に機能し、資料提供等でも問題はないと判断する。今後も学生がより興味をもち主体的に学ぶことができるよう、最新技術に関わる情報提供と演習課題の充実に努めていきたい。

令和 4 年度後期 授業改善計画（事業構想学群）

科目名	授業改善計画
事業プランニング基礎	学類選択に向けて、学問領域を理解しつつ、事業プランニング学類で学ぶことを具体的に考える機会を十分に提供できている。 現在は、主に講義の理解に焦点を当てた課題を出しているが、さらに、「今後の自らの学びの方向性について考える」ことについて学習する機会を提供することを検討する。
地域創生基礎	授業評価アンケートへのご協力、有難うございました。 ・地域創生学類について知ることができた、多くの教員が担当することで学びが多かった、学類の内容をある程度イメージすることができたなどの意見を頂きました。引き続き、地域創生とは何かを紐解く講義内容を目指して、わかりやすくかつ有意義な講義を心掛けたいと思います。 ・本講義は1年生を対象としており、大半の学生は所属学類が決まっていない状態での受講となります。そのため、上記のとおり地域創生に関する知識・理解・課題、学類に対する認識を深めることができた点については到達目標に達していると思われます。その一方で、今後各教員が講義内容を見直すことで、より一層本学類の3本柱である「地域アントレプレナー系」「地域政策・公共系」「地域環境・計画系」に対する理解を深めることができるよう尽力していきたいと考えています。
地域活性化とビジネス	授業評価アンケートへのご協力、有難うございました。 ・本科目は、各回地域創生学類の所属教員とその分野の外部講師をお招きして、講義と対談形式を通じて当該分野の理解を深めることを目的としています。各分野の難しい話題であっても、教員との対談の中で理解することができた、多くのゲストスピーカーから現場の生の声をきくことは有意義であった、地域活性化について知れてよかったなどの意見を頂きました。引き続き、到達目標の達成に向けて講義内容の拡充をはかり、有意義な講義を心掛けたいと思います。 ・本講義は1年生を対象としており、講義内では多くの専門用語が用いられています。当該分野の教員が各回担当し対談することによって、語句の簡略化や現場でのジレンマについて深い議論にまで及ぶことが可能となります。本科目の到達目標を念頭に、受講生一人一人がより一層深い知見を有した上で提案や構築、今後の展望について説明できるよう尽力していきたいと考えています。
事業構想特別講義I（JICA連携グローバルプログラム）	生徒参加型だったところ。また、様々な分野の講師が様々な講話をしてくださったことで、視野を広げることが出来たこと。 ゲストを多く招いていて、毎回新鮮なお話を聞いた点。 実際に経験した方のお話から国際協力に対する考え方まで聞けて、さらに興味を持ちました 多くの外部ゲスト講師を交えて授業に臨めた点。グループディスカッションもよかった。 様々な講師のお話を聞くことができて貴重な体験だった。 →今後ともグループワーク等の参加型の授業を取り入れていきたい。JICA連携グローバルプログラムは、国際協力に関わる様々な分野で活躍する方々を講師として実施するプログラムであり、専任教員を含め、今後とも学生の関心を引き起こすものとしたい。
コミュニティ創造	受講学生の人数にもよるが、講義内では適度にグループワークを取り入れながら、学生たちが主体的にコミュニティビジネスの事例について検討し、その内容に対話や発表など通して深められるように、さらなる工夫を行っていきたい。

令和4年度後期 授業改善計画（食産業学群）

科目名	授業改善計画
食産業学概論	不可の成績の履修生がやや多くみられたので、事前事後の学修をしっかりとしてほしいと思います。
微生物学	・後ろの席は、他授業のレポートをおこない、積極的でない学生が多い。前列の席はかなり空席が目立っており、積極的な講義を促す方法を探っていきたい。例えばあえてマイクを使わないとか・・・ ・事前・事後学修ができていないようであった。そこで、事前・事後学修できるような課題設定を行う。 ・理解度が低いようであった。そこで理解度を向上させるような学習法・レポートなど取り入れる講義法を行う。
環境科学	アンケートで要望があった部分について、できる限り工夫できるように検討していく。 出席確認を兼ねているミニテストについて、授業の最後の方に来て提出している受講生がいることから授業の最初にも出席を確認するように要望があった。履修人数が多く、時間も限られていることから複数回出席確認をすることは現実的には難しいが、次年度以降は履修人数が少なくなるため、複数回の出席確認は難しくても、大幅な遅刻者の把握はできるように工夫する。 話すスピードが速いという指摘については、常に丁寧に話すように心がけることで改善するようにする。 スライド資料への説明の記入については、前年度に空白がほしいという要望があったこと、講義中に説明を聞いてしっかり理解してほしいこと、適宜メモも取ってほしいこと、などから、履修している学生にうまく対応してほしい。説明を丁寧にすること、このような意図を最初に説明しておくことで対応したい。
生化学	前回まで、予習復習のために練習問題を提示し、学習定着を目指すようにした。今回も練習問題を課した結果、予習・復習がも前年度より増えているようにおもえた。今後もっと練習問題を増やして、学習させるようにしたい。
食材生産・加工実習Ⅱ	前年度に引き続きコロナ禍対応での実施ということで、実習場所（食品加工棟）への入場人数が制限され通常の半分の規模での実施となった。十分な環境を提供できず実習回数が減ってしまったことは残念であったが、受講生の協力もあり実験実習を行うことができた。ひと班あたりの人数が減ったことで作業内容は増えたが、その分一人一人が関与度が増え、結果的に理解度が増す効果もあった。改善点では、レポートの形式、採点基準についてはできるだけ事前の段階で明確にしたい。
キャリア開発Ⅰ（食産）	”キャリア”を考える際に、”自己選択・自己決定”は大切です。そのためには、自己理解、環境理解が必要となります。 この「キャリア開発Ⅰ」は、環境理解である職業理解に焦点をあてたシラバス構成となっています。 地元企業や人事担当者の講話を通して、”働く””仕事”の職業観を深め、将来像をイメージできたと学生からの感想が多かったです。また、企業研究発表会をオンラインで実施しました。各自企業研究を行う事で、業界や企業の見方が深まったと思われます。就職活動の早期化への対応と、大学生活の2年間を振り返るために、自己の文章化も実施しました。改めて大学生活の経験をまとめることで、今後の大学生活や職業選択に現時点で何が必要で、何が不足しているのかを実感できたと思います。今後も就職活動の傾向を踏まえながら、講義内容も柔軟に対応していきます。 一方、講義内で、ペアワークを何度か実施しました。その時間配分が短くなり、有意義な意見交換ができなかったかもしれません。時間配分やワーク結果の共有化など検討致します。ビジネスマナーなどを伝えるのもキャリア科目の役割です。自信を持って就職活動に挑めるようになるためにも、今後、マナーの確認をする時間を取りたいと思います。 就職活動、あるいは将来のキャリア選択に役立つ知識を身に付けられるシラバス構成を心掛けます。
キャリア開発Ⅲ（食産）	就職活動は、キャリア形成で大切な”自己選択・自己決定”する場となります。 「キャリア開発Ⅲ」では、就職活動に自信を持ち主体的に動けるよう、就職活動のトレンド情報、履歴書の書き方、面接練習、オンライン対応などのノウハウを伝えました。また、これまでのキャリア・インターンシップ科目を通して身に付けた、ビジネスマナーや業界・企業研究などを実践の場で体感できる学内業界研究会に参加してもらいました。 この講義とリンクし、職業選択や就職活動などの相談、履歴書添削、面接練習など、進路指導員が個別に対応しています。履歴書添削に関しては、今回、職業観をしっかり自分で考え表現するように回数制限（期間限定）を設けました。履歴書の書き方自体に不安がある方は、別途個人面談で相談をしています。 なお、大学院進学希望者については、近い将来の就職活動に活かせる内容となっています。しかし、大学院進学に関する情報提供などができておりません。今後、座談会や相談会など別途対応したいと思います。 この講義で習得したノウハウや、キャリア支援ポータルサイトなど大学で提供しているサービスを活かし納得のいく就職活動ができるよう、今後もキャリア開発室や事務室と連携を取り、就職活動や進路選択をサポートしていきます。
食材生産経営学	「食材生産経営学」は、何かを暗記するような学問ではなく、考え方や概念を学ぶものだと思います。その考え方や概念を体得するには、社会人経験が不可欠なのかもしれませんが、学生時代の読書、サークル活動、アルバイトなどでも十分補完できると思います。 タクシー運転手の給料の決め方、アイスの販売方法等の実例を挙げた講義が好評だったので、そういった内容を増やしていきたいと思います。また、レポートでは、自分の理解したことをまとめるように指示しているが、自分の理解や考えを文章にできない学生がいます。授業の中で話させることも重要だが、文章を書かせることもこれまでどおり続けていきたい。

令和 4 年度後期 授業改善計画（食産業学群）

科目名	授業改善計画
アグロテクノロジー	「学習到達度」の回答結果に若干の低さが見られた点に関して理由の断定は難しいが、今年度新たに後藤先生に担当いただき、到達目標[3]部分の拡充を進め改善を図る予定である。「教材と説明の適切さ」「難易・進度の適切性」の結果より、学生が理解に困難を感じた箇所があったように推察され今年度(2023)において教材を再度確認し改善を図るよう検討する。
食と未来（フード）	各教員のオムニバスで行う形式であるため、かつ内容も各教員の専門分野に近い内容となっているため、卒業前に様々な話を聞くことが出来る点は評価が高かった。一方で、レポートの内容・回数で、サイエンス・ビジネスの境界が不明であったり回数が多いとの意見もあったので、次年度には改善したい。
農産食品学	毎回受け付けていた質問に対して、講義時間の関係上、十分に答えることができなかったため、来年度下記の項目について継続的に取り組む。 ・ 分かりやすい教科書の使用 ・ 全員プレゼンテーションの実施 ・ 最新の情報の提供（特に映像資料）
付加価値植物性食材生産法	プレゼンテーションを班ごととし、班構成をできるだけ少人数とした上で3教員の分野ごとに班構成を変え、役割はできるだけ指定して不公平感のないようにする。また、グループワークにおける各班・各自の自己評価を実施し、改善点の提出を求める。同時並行で行われている付加価値植物性食材生産実験実習の内容と関連づけて、プレゼンテーション、小テストなどの講義予定を無理のないように設定し、高い学修効果が得られるようにする。 分野ごとの改善としては、病害虫防除分野では多岐にわたる防除技術を整理して理解しやすくするとともに、今後重要となる技術・最新事例に重点を置いて解説する。育種技術（ゲノム編集）分野では、遺伝子機能と形質発現の関係の理解が不足している班があった。分子遺伝学の基本原理とともに考察の時間を十分に確保し、逆遺伝学の理解の向上を図る。育種技術（水稻）分野では県内の水稻付加価値戦略に関して事例学習を取り入れ、宮城県の最新実情をより掘り下げるとともに、そこに関わる科学的知見を深く理解するための専門知識の習得に努める。また、講義時間中のディスカッションとプレゼンテーションを通じて実践的考察の時間を確保する。
畜産食品学	アンケートの結果から、授業に関して、特に大きな問題がないと思われるため、昨年度と同様に、小テスト、中間試験、期末試験の実施、レポート課題などを行う。感想などをフィードバックし、できるだけ双方向な授業を実施する。
動物生理学	この科目は今期で終了した。来期は解剖生理学が読み替えとなる。学生が自ら調べて発表し、それを補足していく形の講義とする。
動物衛生学	この科目は今期が最終であった。今後は別科目の中で動物衛生学について教える予定。
付加価値動物性食材生産法	もう少し積極的なディスカッションがあればベターな授業展開になると思います。
循環型動物生産論	検証：本科目は今年で4年目となる科目であり、内容についてはシラバス通りに進められた。全体的に、全体平均より若干低い値で海面下に沈んでいたが、改善してほしいなどの意見はなかった。小テストについては、毎回の講義の内容を整理でき理解が深まったと言う意見があったが、評価は良と可が80%を占めており、学生の興味が低かったかと思われる。 改善点：本講義の内容は草地をベースにした内容で、動物そのものの内容が少ないことから動物系の学生には受けない傾向にあると思われる。その辺も踏まえて、講義の内容を若干修正する。また、事前・事後学修時間が、平均よりかなり低かったことから、小テストの内容をもう少し難しくする必要がある。開講時間が、月曜日の1コマ目と言うのも、評価全体に影響したものと考えており、次年度は開講曜日および時間を変えたいものである。
動物生産基礎実験Ⅰ	授業外学習時間は5時間となり、昨年の倍の時間を使っていることになりました。実験ごとのレポート作成をためずに行うことで、レポート作成にかかる時間の短縮を図りましょう。
動物性食材生産実験実習Ⅱ	課題レポートは必ず提出するようにしてください。

令和4年度後期 授業改善計画（食産業学群）

科目名	授業改善計画
付加価値植物性食材生産実験実習	植物生産科学コースの実験実習として最後の科目であるため、計画立案・実験実施・結果解析と考察について、より主体的に取り組めるよう改善する必要がある。そのため、できるだけ少人数の班構成とし、各班の実験を主体的に計画・実施できるようにする。またグループワークにおける各班・各自の自己評価を実施し、改善点の提出を求める。施設見学は、温室内だけでなく露地での栽培を見学できるように本年度と同様の時期に実施する。 微生物分野では、取り組む試料の選択と結果予想を班ごとに実施してクラス全体で共有した後に実験を進め、まとめた実験結果についてもクラス全体で議論する。育種分野では、DNA塩基配列解析の時間が足らなかったためか、変異と遺伝子機能の考察が不十分な班が見られた。DNA解析の説明を適切に行い、解析の時間を確保する。水稻分野では、本年度に引き続き、宮城県ブランド品種を実験対象として、それら品種の良さを説明できる知識習得と、実験により評価・解析するスキルの向上に努める。
付加価値動物性食材生産実験実習	課題レポートは必ず提出するようにしてください。
分子遺伝学	植物・動物遺伝育種学をそれぞれ履修していなくても理解しやすいように講義を工夫し解説します。また、特に理論や現象については具体的事例などを示してイメージしやすい講義に努めます。
食品マーケティング論	講義冒頭で事例を用いた演習を毎時間取り入れることができた。この取り組みについては、学習の理解を深めるうえでも概ね好評であったため、今後もこのような機会を設けて実施していきたい。
食産業政策論	今年度の食産業政策論は、担当教員が急遽変更になり、各回東北農政局の各担当課の課長クラスをゲストスピーカーに招いて、現在の食料政策について講義を行ったもので、シラバスの内容を変更している。食産業政策として農業を含む食産業の政策について、まさにその現場での担当者に話してもらうとい貴重な経験を15回にも渡ってできた。東北農政局からの講義なので、講演者としても学生への講義ということには不慣れで、配付したPDFも（官庁がしばしば行うような情報のたくさん詰まった）膨大な資料になっていて、60～90分の時間に対して盛りだくさんのないようになっていたのではないかと思います。ただ、そういう貴重な資料と直接の警咳に触れるということはよかったのではないかと考えます。
食品の安全性管理	アンケート結果より、良かった点として「食品の安全性を多方面から学ぶことができた。」、「講義が分かり易かった」、「HACCPの7原則12手順を覚えられたり、前線で活躍されている外部講師の方の話を聞いたりできて、現場で生かせそうだと思いました。」、「講義資料が穴埋め形式で覚えやすかったです。」、「企業で品質を管理している方々のお話を直接聞ける機会はなかなかないので、良い経験になった。」、「多くの企業の方や外部講師が来てくださって、実際の現場の話しも聴くことができたのが良かった。」、「テスト対策や例題のような形で問題を示してくださったため、テスト勉強に取り組みやすかった。また、就活情報についても授業内で触れてくださり、勉強になりました。」、「試験に出やすい要点などが分かりやすく、試験勉強しやすかった。就活事情なども考慮していただけて助かった。」、「複数の企業の方やその道の現場の方に登壇いただき、ある意味授業らしくはなかったが、面白い話を聞くことができた。」などの声が聞かれたことは、実践力を高める本授業の目的が理解されたと感じております。また、授業外の学習時間も例年より増加しており良い傾向ですが、引き続き講義終了後に課題を出して復習の取り組みが自主的にできるよう丁寧に説明していきたいと思います。本学類の卒業生は、食品メーカーの品質保証の部門に就くことも多いので、より応用力を高めるより良い授業となるよう今後も頑張ってください。
食品機能開発学	アンケート結果より、良かった点として、「講義毎のレジュメが要点などが見やすく、わかりやすかった。」、「石川先生分は、試験に出やすいなどがまとめられていたり、試験の例題の提示があって試験勉強しやすかった。石川先生分は、レジュメのまとめ方が丁寧で見やすかったし、復習がしやすかった。」、「講義資料が穴埋めで覚えやすかったです。」、「日常生活で健康維持をするために必要な栄養素や気をつけなければならないこと、保健機能食品の役割について学べてよかったです。」、「食品の様々な機能性を知り、食事の大切さを感じた。」、「自分にとってとても大事な知識を身に着けることができた。」などの声が聞かれたことは、食品の栄養・機能性について原理のみならず応用・実践力を高める本授業の目的が理解されたと感じています。授業外の学習時間は例年より増加しており良い傾向ですが、引き続き講義終了後に課題を出して復習の取り組みが自主的にできるよう丁寧に説明していきたいと思います。本学類の卒業生は、食品メーカーの開発部門に就くことも多く、少子高齢化の進展により、よりオーダーメイド型の食品開発が求められていくことから、より応用力を高めるより良い授業となるよう今後も頑張ってくださいと考えております。
発酵食品・醸造学	概ね理解度は進んでいた。しかし、予習が不十分であったので、レポートの書き方などが不十分なものがあった 課題図書 の指定などを行い、予習・復習の仕方などの指導を徹底したい。
水産利用学	アンケート結果より、授業改革の分かり易さ、目標到達できる内容が低値だったことは改善の余地があると考えています。本授業はフードマネジメント学類の水産食品学とほぼ同じ内容で進めていることから、学類間で差が生じたことについても改善を図る予定です。授業外の学習時間は例年より増加しており良い傾向ですが、引き続き講義終了後に課題を出して復習の取り組みが自主的にできるよう丁寧に説明していきたいと思います。本授業の履修者は水産に興味を持つ学生であることから、より応用力を高めるより良い授業となるよう引き続き頑張ってくださいと考えております。
水産資源学	本授業は水産分野の授業として初めて受講する学生が半数を占める科目である一方で、水産分野に進学したい、より専門分野を学びたい学生も受講しているため、各学生にあった授業内容を行う必要がある。理解度向上に向け事前・事後学習の強化を図り、理解度を高めていきたい。今年度の集中講義では教室の空調が壊れており授業環境が非常に悪かった。事前に事務などで確認をお願いしていたが、当日の変更などもあり寒い中での授業となってしまう、アンケートでも指摘があった。次年度以降は改善していく。

令和4年度後期 授業改善計画（食産業学群）

科目名	授業改善計画
食品企業経営論	指定テキストを読むだけであればほんのわずかな時間で予習が可能です。実際には1時間以内しか使われていません。予習の段階で内容をどこまで深められるか、言い換えれば、使われている語句の正確な意味を理解し、使いこなせるかどうか、そして自分の身の周りの具体的企業活動の事例に適用できるかが問われる科目です。 授業の最初の30分程度は学生からの前回授業に対するコメントや質問に答える形で「講義内復習」を実施していますが、そこで述べる教員のコメントは良いモノばかりではないことを十分に理解して頂きたいと思います。場合によっては出された意見に対する厳しい批判という形を取ることもあります。これは書いた人への人格的な批判ではなく、あくまで書かれた文章とその内容に対する批判です。まずは、それを理解すること、そして大学生であれば、自らの意見を好意的に批判されることも少しずつ慣れていってほしいと思います。事前にしっかりと予習してきた学生のコメントと何も準備せずにそのまま授業を聞いた学生のコメントでは内容やレベルに大きな違いがありますので、2023年度はその点を踏まえて対応したいと思います。 また、授業で使用したスライドを欲しいという意見がいくつか出ていますが、教科書があるということを理解して下さい。この分量の教科書、それも1回当りの分量はわずかです。そこから自らの予習・復習でどこまで膨らませるかが問われています。授業で話す内容のうち、教科書に出ていない部分は、教科書からどのように様々なことを考えられるかという例ですので、「教員のまとめ」であるスライドを覚えるのではなく、まとめは自ら作ること、そして「考え方」を授業で習得して下さい。単に、経営学関連項目を覚えるためなら、一般的な経営学のテキストがいくらでも市販されていますし、内容にはほとんど大差はありません。
食品化学	2022年度は一部を集中講義で行ったが、受講生の協力もありほぼ円滑に講義を行えた。分量の多い学問分野であるので、事前・事後学習の設定、試験時の告知の方法など、適切な分量となるよう改善を図る必要がある。
品質保証システム演習	2021年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、リモート開講となったが、従来の2022年度は対面形式での実施となった。当該の演習科目はグループワークによるディスカッションが主となって展開するものであり、時間としては、やはりリモート開催よりも対面形式による開催の方が、実施のし易さや教育効果などを勘案すると望ましいと判断された。開講時期が夏休み期間中とのことも関係するが、受講学生の参加意欲や取り組む姿勢なども良好で、前後の学習時間確保も、し易いようであった。 演習の改善点としては、本学では食品製造の現場を再現することが難しい状況にあるため、これまでは製造現場を想定しての演習を行ってきたところを、他学の給食実習現場の状況をDVDで撮影したものを例として上げ、これに関するHACCPプランづくりを行う部分を追加しながら、更に実践的な演習を展開する予定である。
フードサービス産業論	・すべての項目において良好な評価を得ることができた。 ・実業界の事例への関心が高いことが読み取れたため、翌年度以降もゲストスピーカーの招聘や事例の紹介にも力を入れていきたい。 ・改善した方が良い点として、試験範囲について「最初のガイダンスで話してほしかった」という声があがっていた。これについては初回の授業で説明をしていたが伝わっていなかったようだ。大切なことなのでより強調して伝えたい。 ・想定よりも事前・事後学修の時間が少なかった。より具体的な課題を提示し、授業外の学修時間を確保したい。
食品マーケティング演習	仙台市消防署と事業構想学群とのコラボレーションにより、実学プログラムのもとで食品マーケティング課題への取り組みを演習形式で実施できた。こうした取り組みについては学生からも概ね好評であったため、今後も様々な食産業における団体とマーケティング課題を解決するプログラムを設けて実施していきたい。
食品企業経営戦略演習	前週に配布する教材を各自が事前に予習して参加するため、必然的に予習時間は一定量が必要になります。また、翌週の課題をこなすためには前週の課題をしっかりと理解していることが前提となるため、復習も兼ねることになり、結局、毎回毎回の積み重ねを十分に要求される授業です。「この講義に向けて大学生になって一番しっかりと勉強しました。」「企業経営の状態を様々な指標を基に分析し、そのデータから自分で考察することの大切さを学ぶことができた。」というコメントが全てを表わしています。 クラス規模は概ね適正であり、ほぼ全員が複数回の発言を求められます。標準的な準備を行う学生はこのクラスを終了した段階で概ね大学ノート1冊を終了することが多いので、このレベルを維持していく予定です。2023年度後期も可能な限りこの演習は対面型で実施する予定です。
食品経済・政策論演習	食産業を調査にあたって、WEBにある情報の取捨選択、統計に関するExcelの処理、グラフ化などこれまで学んだIoTや統計学的知識を駆使して行い、また、統計利用で注意すべき点など扱える題材を選んだ。統一的な題材というよりも必要な知識や技術を重点的に行える題材を選んでいるので、題材間に関連が見いだせないものが多かったかもしれない。が、卒業研究を行うにあたって十分な経済統計的な知識は一通り実践しているの、しばらく使っていなかったとしても、必要になったときに思い出すことは容易だろう。

令和4年度後期 授業改善計画（食産業学群）

科目名	授業改善計画
水産食品学	アンケート結果より、良かった点として、「水産食品学の内容が面白く、興味を持った。」、「動画や実際にある商品を用いて授業が行われたので、毎回興味を持って受講することができた。」、「穴埋め式のレジュメによって理解が進んだ。」、「外部講師の授業がとても参考になって、記憶に残っている。 西川先生の授業も、速度も適切でわかりやすかった。」、「企業の方から直接お話を聞ける機会がたくさんあってよかったです。」、「寒天を触ったり、食べたりする体験が楽しかったです。」などの声が聞かれたことは、水産物の加工特性や加工法について原理や応用のみならず、宮城県、日本、そして世界での水産業・水産加工業の現状や展望についても理解していただけたので、本授業の目的が理解されたと感じております。ただ、授業評価の中で予習復習など授業外の学習が若干できていない状況が見受けられることから、事前に水産加工の製法等について調べて講義に臨み、終了後に課題を出して復習の取り組みが自主的にできるよう講義中に丁寧に説明していきたいと思います。本学類の卒業生は、地元宮城を中心に民間企業で水産加工品の開発職に就くことも多いので、より応用力を高めるより良い授業となるよう今後も頑張っていきます。
食品栄養・機能学実験	食品栄養・機能学実験では、マウスを用いて実験実習を行うため、動物の取り扱いが難しいと感じた学生も多かったようであるが、班メンバーが協働で動物飼育・解剖・分析を真剣に取り組み、結果を取りまとめて十分な考察を行うことができ、学修到達目標は達成できたと考える。今年度は特に、班メンバー間での相談、協働や助け合い、意見交換、検討や考察が十分に行われ、真剣かつ和やかに実習が行われて大変有意義であった。まとめのプレゼンテーションにおいても、関連文献や資料を十分に調べた上での考察が示され、また、熱心な質疑応答も行われて、大変充実した内容となった。 本実験実習は、動物を扱うことや学生にとって初めての手技手法を学ぶ機会が多いことから、ハードルが高く難しく感じられると思うので、資料や説明をさらに分かりやすくするよう心がけたい。
食品化学実験	予習が不十分であったので、試薬調製やレポートの書き方などができていない。指導を続けていきたい。 論文を読みこなすよう、予習・復習の仕方などの指導を徹底したい。 来年度以降は、より実践の研究に近い高度な実験を行うように改善する。
グローバルフードシステム論	グローバルフードシステム論では、まず国際貿易の経済理論についての学修をしてもらう必要があり、その理論の要が「比較優位理論」であり、さらにそれを一般化した「ヘクシャーオーリンの定理」である。これらは公務員試験に頻出のものであるため、理解し問題が解けるまでに習熟する必要がある、またそのレベルにまで上げるよう授業では工夫している。特に前半の講義は、概念の学習なので、定着するにはそれなりの時間外学習が必要だが、時間的熟成を要する。後半の世界貿易の現状については、現在のリアリティのある課題が提示され考えやすいように工夫されているが、前半の理論を踏まえて考えるととても有効である。
調理科学	アンケートの結果から、授業に関して難易度設定などは改良を行う。全体として特に大きな問題はないと思われるため、昨年度と同様に、小テストや試験の実施、レポート課題などを行いながら、知的好奇心を刺激するような講義を行う。 小テスト・質問などはteams等を使って共有し、双方向な授業を引き続き実施し、学生の理解度や到達度を確認しながら、講義を実施する。
経済経営学基礎	・試験のアナウンスは早めにするようにしたい。
フードマネジメント概論	本授業はフードマネジメントという分野の入門を目的としたものである。フードマネジメント学類の各教員が自分の専門とする分野を1コマずつ講義することでフードマネジメントの各論について知ってもらい学類選択・研究室選択につなげてもらうものである。受講生はフードマネジメント学類の先生方の多種多様な関心を知り、また興味や関心を広げてもらい、2年生以降の学習に役立ててもらえればありがたいところです。先生方も入門ということで興味の持つような内容での講義をおこなっています。ただ、教室が大勢を収容しての講義にはやや相応しくなかったと思いますが、新型コロナ下での対面での講義ですから、その点はやむを得なかったものと思います。今後この点が改善されることを考えたいと思います。
科学基礎実験	良かった点としては、「様々な分野の実験を行うことができた」、「実験に必要な基本的スキルが学べた」というコメントがあった。改善したほうが良い点では、「レポートの量が多すぎる、難易度が高すぎる」などのコメントがあった。難易度については、ちょうどいい、易しい、という意見もあったことから、学生間で難易度の受け取り方に差がでたと考えられる。事前の説明をこれまでよりも丁寧に言う、提出後のフォローバックを行うなどして、難しいと感じる学生にたいして改善を図っていきたいと考える。レポートの量が多いという指摘に関しては、事前に×切の予告を行うなど配慮を行っているが、他の科目の課題と重なることもあり、そこまで考慮するのは難しい。本科目の到達目標の一つに「データ処理や実験報告書を作成できる」が掲げられており、これは、今後の全ての実験実習、卒業研究、ひいては就職後のキャリアの礎ともなる重要な設定項目である。レポート作成はこの到達目標を達成するための重要な学修手段であるため、必要なタスクであるとしてとらえて頑張っていたきたい。